

現場ニーズ一覧表(令和7年度時点確認)

令和7年度マッチング 現場ニーズの概要表

概要資料 No	分類	事務所名	現場ニーズの名称	現場ニーズの概要
1	点検・維持管理	利根川上流河川事務所	渡良瀬貯水池におけるカビ臭の抑制または除去	渡良瀬貯水池では運用開始後、冬季の干し上げ、ヨシ原浄化施設、谷田川分離施設等の水質保全対策を図ってきたが、植物プランクトンの藍藻類の増殖に伴いカビ臭(2-MIB及びジェオスミン)が発生し利水上の課題となっており、より効果的な抑制対策や除去手法となる技術を求める。
2	点検・維持管理	霞ヶ浦河川事務所	堤脚水路の水を活用した浄化対策技術	霞ヶ浦では、堤脚水路が周辺の水田や蓮田からの排水路としても使用されており、その水質は流入する支川に比べ汚濁が著しく進行している。また、平時は流速がほとんどなく常時水が滞留していることから水路内は汚濁物質の貯留が進み、有機物の分解による嫌気化も生じている。霞ヶ浦の水質保全を図る為に、堤脚水路の水を浄化(窒素、リンの除去、CODの改善)する技術を求める。
3	調査・測量	利根川ダム統合管理事務所	利根川上流域の積雪量を推定する技術	利根川上流ダム群にとって雪は貴重な水資源の一つであることから、利根ダムではこれまでに冬期における積雪観測を流域全体で実施、調査してきた。テレメータ化されていない観測地点もあり、現状では山岳地帯へ人力で運搬、設置、撤去を行い観測を継続している。その際のデータは衛星通信機器により自動送信している。現在の積雪情報は観測地点の点情報であり、流域全体を面的に捉えていない。そのようなことから、人員の安全管理またはコスト縮減を目指して衛星等を活用した最新技術を取り入れ、安定的な積雪観測が行える技術を求める。
4	点検・維持管理	鬼怒川ダム統合管理事務所	湯西川ダムにおける堤体内の無線LAN設備を活用した自動航行UAV等によるダム監査廊内巡視・点検作業の自動化・省力化	ダム管理においては、堤体の安全性の確認や異常の兆候を速やかに察知するため、ダム堤体内監査廊内を人による日常巡視・点検や地震発生後の緊急巡視を行っていますが、高低差の激しい階段の上り下りなどがあり多くの労力と時間を要している。このため既設堤体内の無線LAN設備を活用し、人が実施しているダム監査廊内の巡視・点検を自動航行UAV等により自動化し、省力化や迅速化が可能な技術を求める。
5	新工法・建設材料	品木ダム水質管理所	品木ダムに堆積する浚渫土を再資源化し有効活用する技術	草津白根山から流れ出る温泉水は強い酸性で、水素イオン濃度が高く、下流域への影響を改善するため炭酸カルシウム(石灰)により中和処理を行っている。しかし、中和処理により未反応石灰や中和生成物がダムに堆積することから、毎年浚渫が必要となっている。品木ダム水質管理所では、日々多くの炭酸カルシウムを使用し、中和生成物が発生することから、中和生成物を再利用し、浚渫土に含まれる重金属等を取り出すことで、浚渫土を再資源化し有効活用する技術を求める。
6	点検・維持管理	宇都宮国道事務所	安全な薬剤を用いて雑草の成長抑制や効率的な除草を行う技術	宇都宮国道事務所管内においては、道路植栽の管理にあたり計画的に剪定・除草をしているが、雑草の繁茂期(5～7月)は特に、視距不良や通行障害、周囲から見えにくくなることによるゴミの不法投棄などの苦情が多く、限られた予算内での除草作業に苦労している。防草シートの設置や除草に除草剤を活用するなど限られた予算内での効率的な除草に努めているが、全体量が多いことに加え、刈っても直ぐに繁茂することなどから、新たな技術等を模索している状況である。以上のことから、耕作物等に影響しない安全な薬剤を散布することで雑草の成長抑制や効率的な除草ができる技術を求める。